

た。ただし、事業計画案と実績概要の各項目との対比をわかりやすくするために表とすることとした。

2) 2017年度事業計画骨子(案)(渡部)

資料を確認の上、理事会議案として承認した。

3) 地質学雑誌「編集投稿出版規則」の改正、再提案(中澤)

資料で今回の改定案の要点を確認の上、理事会議案として承認した。

4) IARの編集業務体制の変更について(田村)

学会の事務業務量増大に伴う事務局体制検討の一つとして、学会事務局で行っているIAR編集事務を出版元のWiley社に委託する案について検討した(報告事項2.(2)4)参照)。IAR編集委員長・編集事務局長、学会事務局、Wiley社担当者の打ち合わせ(11/30)内容の報告を受け、Wiley担当者との引継ぎ(2016年12月～2017年1月)を進め、2017年2月から委託開始する案を承認した。

5) 創立125周年に向けてのアクションプラン(案)(渡部)

資料を確認の上、理事会議案として承認した

2. 理事会議事運営

理事会議長・副議長とともに、第3回理事会議事次第の各事項を確認した。

3. その他

1) 野外調査の研修制度(地質調査研修)のあり方の検討(杉田)

地質調査研修は地学情報サービス(株)から引き継ぎ、2012年以降今秋まで徳橋講師のご尽力により行われてきたが、今後、学会の事業としての実施のあり方等を再検討することとした。したがって、来春からの地質調査研修は実施を見合わせることにする。

2) 学術会議会員半数改選(平成29年10月)に向けて、候補者の情報提供依頼、1/6～1/20(斉藤)

会員・連携会員一覧を確認の上、女性4名を含む6名を連携会員として推薦することとした。

II 報告事項

1. 全体的報告

江 博明氏(台湾: Island Arc Editorial Advisory Board)の突然の逝去に対し、台湾地質学会会長に対し、会長名で中文メール送付した。Island Arc編集委員会委員長からも同様にメールを送付。※なお、その後(理事会席上)先方の状況が判明したので、前例としないことを確認して、地質学会会長およびIAR編集委員長の連名で献花することとなった。

2. 運営財政部会: 総務委員会(緒方・西) <共催・後援依頼、他団体の募集等>

1) 三菱財団より、自然科学研究助成、募集期間1/10～2/7(学会推薦不要)→HP、geo-flash、ニュース誌に掲載 <会員>

1) 今月の入会者(1名)正会員[1名]: 吉村成公

2) 今月の退会者 なし

3) 今月の逝去者 なし

4) 2016年11月末日会員数 賛助: 27, 名誉: 56, 正会員: 3716(正会員: 3531, 院割会員: 171, 学部割会員: 14) 合計 3798(昨年比 -77)

5) 年度末(2017/03)退会予定者(46名)・除籍予定者(67名)の名簿を回覧した。

3. 編集出版部会(中澤・田村・小宮)

(1) 地質学雑誌編集委員会(山路編集委員長, 中澤担当)

1) 編集状況報告(12月1日現在)。

・2016年投稿論文 総数86編[総説15(和文15), 論説42(和文42), 報告7(和文4, 英文3), 講座5(和文5), ノート3(和文2, 英文1), 口絵3(和文3), 巡検案内書11]

・査読中: 38, 受理済み: 11編(うち特集号3)

・122巻11月号: 論説4, 報告1(10/29発送済み)

・122巻12月号: 論説2, 報告1, ノート1, 講座1 計約50ページ, 入稿・校正中

・規則改正について

(2) アイランドアーク編集委員会(田村)

1) 編集状況

Vol.26 Issue1(2017年1月): IGCP特集号4編, 一般原稿1編; 計5編予定

2) オンライン投稿の状況

過去半年(2016.6.1?2016.11.30)の投稿数42件, うち新規投稿32件。

3) 特集号編集状況()は代表世話人, [公開済/受理済み/構成予定原稿数]

「Land-Ocean Linkages and Biotic Evolution during the Cretaceous: Contribution from Asia and Western Pacific (IGCP608)」(安藤寿男) [2/8/28]

「Orogenic processes in island arcs: subduction, accretion, collision and recycling.」(山本啓司) [0/0/17; 6編投稿済み]

「The mechanics and evolution of megathrusts within accretionary complexes」

(坂口有人) [2/4/12]

「Recent progress in study on calcareous algae and algal sediment」(井龍康文) [0/5/12]

4) その他

・IAR編集事務局業務委託について

11/30に武藤, 田村両編集委員長, 板本編集事務局長, 澤木(学会事務局)およびワイリー担当者を交えて検討を行い, 主に学会事務局で行っている業務を委託することとした。委託費は, 年間投稿論文数100編まで80万円(さらに割引を交渉中)。投稿数100編を超えた場合の費用について, 大幅な投稿増が見込まれる場合は, ワイリー社と相談。また委託費用の支出方法については, 学会会計担当者と相談のうえ決定する。あわせて編集委員会は引き続き投稿論文数を増やし, 雑誌

2016年度第6回執行理事会議事録

期 日: 2016年12月3日(土) 11:00～12:30

場 所: 北とびあ 701会議室

出席者: 渡部会長, 山本副会長, 松田副会長, 齋藤常務理事, 安藤, 緒方, 坂口, 杉田, 田村, 小宮, 内藤, 中澤, 平田, 西, 廣木, 向山議長, 佐々木副議長, (事務局)橋辺

欠席者(委任状提出あり): 岡田 辻森 山田

*定足数(12, 委任状含む)に対し, 出席者15名, 委任状3名, 合計18名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 理事会審議事項の最終案確認

1) 2016年度事業実績経過報告(渡部)
逐条確認の上、理事会議案として承認し

契約ページ数 (845p) に近づけるよう編集努力を行うことを確認した。今後は、ワイリー担当者と具体的に引き継ぎを行い (2016年12月～2017年1月)、2017年2月から委託を開始したい。

・New Journal Workflowへの移行 (2017年1月より順次導入予定)

おもな内容は以下の通り。

①2017年1月より誌面変更 (New Journal Design: NJD)。

②永続的な電子著作物の識別子であるeLocatorの付与 (2017年1月より)。

③校正確認をPDFからHTML画面でのチェックに変更。著者、編集委員会が同じ画面を共有して確認作業を行う (2017年春以降導入予定)。

5) 将来的には投稿～出版までを著者、査読者、Editorが同じオンラインファイル上で行えるようにする。

以上

2017年1月21日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長 (代表理事) 渡部芳夫
署名人 執行理事 齋藤 眞

2016年度第7回執行理事会議事録

期 日: 2017年1月21日 (土) 13:00～17:00

場 所: 地質学会事務局

出席者: 渡部会長, 山本副会長, 松田副会長, 齋藤常務理事, 安藤, 岡田, 杉田, 田村, 小宮, 内藤, 中澤, 西, 平田, 廣木, (事務局) 橋辺

欠席者 (委任状提出あり): 緒方 (渡部) 坂口 辻森 (齋藤) 山田

*定足数 (12, 委任状含む) に対し, 出席者 14名, 委任状4名, 合計18名の出席。

*前回議事録を承認した。

I 審議事項

1. 山田科学財団の研究援助推薦 (推薦枠3名) 希望者1件の選考 (財団締切2/24)

現時点で応募のある1件の推薦を決定した。なお, 学会への推薦応募申請は1月末なのでそれまでに他の申請があれば, 随時選考することとした。

2. 愛媛大会の委託業務見積もりと業者の選定

アカデミック・ブレインズ (株) の見積もり書類を確認し, 委託を承認。

3. 2017年度予算要求作業について

支部, 専門部会, 委員会等からの予算要求の取りまとめ中

「創立125周年に向けて重点化する短期的アクションプラン」に沿って, 来年度の各事業および各支部, 専門部会, 委員会事業につい

ても見直しや検討を行っていくことを確認。

4. 地質調査研修事業について

本事業については, 事業見直しのため現行の地質調査研修事業の終了を12月の執行理事会で決定し, 理事会への報告を行った。これをうけて共催先である産総研にも通知することとした。また, この間, 講師を務めていただいた徳橋会員にもこのことを報告することとした。

II 報告事項

1. 全体的報告

1) 子ども向け地質学デジタル教材の制作について, 子どもゆめ基金の第一次審査を通過し, 2月23日に二次審査のヒアリングが行われることとなった。審査書類の作業は進行中。(小宮)

2) 鉱物資源部会は2017年1月1日より中村謙太郎部会長が部会長となる報告があった。

9月年会以降, 部会長の交代があったのは以下のとおり。地域地質部会: 齋藤 眞, 層序部会: 岡田 誠, 堆積部会: 横川美和, 構造地質部会: 金川久一, 火山部会: 及川輝樹

3) センター試験の評価について (廣木)

2. 運営財政部会: 総務委員会 (緒方・西)

<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

1) 第9回地理学連携機構, 地理関連学会連合 (地質学会は賛同学会), 人文・経済地理及び地域教育関連学会連携協議会による合同総会 (3月27日13時～14時50分, 筑波大学) は, 欠席の返事をする

こととした。

2) 科学技術振興機構研究プロジェクト推進本部より「戦略的創造研究推進事業・総括実施型研究 (FRATO) の研究総括候補者の推薦依頼, 年間を通して随時受付。プロジェクト約5年間, 12億円上限←geo-flash, News, HPに掲載

3) 消防庁「平成29年度消防防災科学技術研究推進制度」研究開発課題の公募 (12/5-2/6)

← geo-flash, News, HPに掲載

4) 国際会議「第4回Slope Tectonics」(実行委員長千木良雅弘) 2017/10/14-18, 京都大学の後援を承諾。

5) 「ふしぎ発見鳥取砂丘」(鳥取砂丘再生会議) 2017/01/21の後援を承諾。

6) 地質標本館新春特別展「ふるさとの新たな主役の石」2017/1/17-2/26の後援を承諾。

7) 科学教育研究協議会64回全国研究大会 (広島市8/7-9) の後援を承諾。

8) 以下の後援事業の報告があった。

①第17回子供のためのジオカーニバル: 来場者2400名, 13ブース, 4セミナー開催

②新潟大学旭町学術資料館企画展示「ジオパークの石ころ展」: 来場者529名, 体験イベント109名の参加者。

9) 岩本鉱産物商会より, 2017年1月末日をもって100年営業の歴史に終止符を打つ

との挨拶があった。これに対し, 会長名でご挨拶状を送った。

<会員>

1. 今月の入会者 (4名) 入会申込書を回覧し承認

正会員 (院割) [4名]: 穴井千里 (2016年度から), 高村悠介・栗原祐典 (以上2017年度から), 川口昌人

2. 今月の退会者 (正会員2名) 井澤一輝, 藪田哲平

3. 今月の逝去者 (正会員2名) 堀井 篤 (2016年8月21日) 小池美津子 (2016年4月28日)

4. 2016年12月末日会員数 賛助: 27, 名誉: 56, 正会員: 3716 (正会員: 3529, 正 (院割) 会員: 171, 正 (学部割) 会員: 16) 合計 3799 (昨年比 -80)

<会計>

・支部及び専門部会に2017年度事業計画および予算案の提出の連絡をした。

3. 広報部会: 広報委員会 (坂口・小宮・内藤)

(1) フォトコンの応募数650点 (一般613, 中高生37, スマホ53, ジオ鉄18)。2/15に二次審査を行う。前年より応募数が増加。展示会 (銀座のプロムナード (6月) に申込中, 4月に抽選結果), 授与式の実施体制検討中

(2) 地質学会ウェブサイト (英文) の更新。年度内を目指す。

4. 学術研究部会 (岡田・山田)

(1) 行事委員会 (岡田)

愛媛大会の巡検での愛媛県市之川鉱山 (輝安鉱, 県の石) の見学について問い合わせ。巡検委員会としてはすでに決定済みのため, 追加は見送り。なお, 愛媛大会実行委員会から日本鉱物科学会 (9/12-14, 愛媛大にて開催) に巡検企画を打診し, 実施を確認済み。日本地質学会は協賛学会となり, 会員の参加も可能。

(2) 国際交流委員会 (井籠)

・交流協定の各国地質学会にクリスマス・新年のカードを送付した。韓国及び台湾の地質学会会長より, カードが送られてきた。

(3) JIS, 標準担当 (中澤)

・委員長決定, 検討内容を

・地層名データベース ニュース誌に紹介記事 (2017年1月号)

(4) その他

5. 編集出版部会 (中澤・田村・小宮)

(1) 地質学雑誌編集委員会 (山路編集委員長, 中澤担当)

1) 編集状況報告 (1月10日現在)。

2016年投稿論文 総数95編 [総説17 (和文17)・論説47 (和文47)・報告9 (和文4, 英文5)・ノート3 (和文2, 英文1)・講座5 (和文5)・口絵3 (和文3)・巡検案内11] (昨年比+22) 査読中: 37, 受理済み: 15 (うち特集号6)

・122巻12月号: 論説2, 報告1, ノート1, 講座1 計50ページ (発行済み)

- ・123巻1月号：論説1, 報告1, 講座1, 案内書1 計55ページ (1/23校了, 1/31発送予定)
- ・2016/12/3規則改正 (文献の英文併記箇所の増加)に伴う文献リストの肥大化を緩和するため, 文献リスト欄の文字サイズ縮小, 7.5p→7ptに変更する.
- ・125周年記念特集号について-投稿及び編集状況の確認
各特集世話人への編集情報提供と, 各号の取りまとめ作業について
- (2) アイランドアーク編集委員会 (田村)
 - 1) 編集状況
Vol.26 Issue1 (2017年1月): IGCP特集4編, 一般原稿1編 (計73ページ) 予定
Vol.26 Issue2 (2017年3月): 一般原稿6編 (計約60ページ) 予定
 - 2) オンライン投稿の状況
過去半年 (2016.7.1~2016.12.31) の投稿数41件. うち新規投稿33件.
 - 3) その他
 - ・新しい誌面レイアウトに対応した Technical Style Sheetの内容を確認し, Production Editorへ連絡した.
 - ・Wileyより編集事務局業務委託に関する契約書追記 (案) が提示された.書面について確認し, 特に投稿数 (200編/年) についてはWileyに確認する.
- (3) 企画出版委員会 (小宮)
 - ・探検マップ大島編については進行状況を確認する.
- 6. 社会貢献部会 (平田・杉田・廣木・辻森)
 - ・2017年度の街中ジオ散歩は関東支部と打ち合わせ下見を行い, 国分寺周辺で5月14日に実施することとした. 講師: 中山・山崎氏に依頼. 募集様式を検討中.
 - ・今後各支部等に, 特に都市部の企画 (街中ジオ散歩等) の実施を働きかける.
- 7. ジオパーク支援委員会 (平田)
 - 2016年12/9 ジオパーク委員会 審査結果発表 (認定・再認定)
 - 2016年 第17回 地震・火山サマースクール (南紀熊野) 報告 (報告書回覧)
 - 2017年8月9-10日 (予定) 地震・火山サマースクール
 - 各学会の自己資金+益城町から開催地提案, 協力: 熊本大学
- 8. 地学オリンピック支援委員会 (平田)
 - ・12/18 予選会を実施 1924名 1600名受験 (昨年比 200名減) 72会場
 - ・回覧: 実施報告書, 未来ガイド
 - ・国際地学オリンピック実施経費の残について, 今後の用途にかかわる予定事業の報告をもとめることにする.
- 9. 地質災害委員会 (斎藤, 松田達)
 - 防災連携体 (4/15: 熊本県庁, 地質学会: 大橋 (山口大) 氏が発表予定
- 10. 地質技術者教育委員会 (山本)
- 11. 125周年記念事業実行委員会 (緒方, 渡部)
 - ・News誌1月号に事業概要及び寄付願い, 記念ロゴについての記事を掲載する.

- ・記念シールを作成, 地質学雑誌の特集号は4月号 (予定) より.
12. 県の石支援委員会 (辻森, 代斎藤)
- ・支援活動報告: 取材対応状況, 県の石解説書出版準備状況
 - ・産総研 地質標本館2017年新春特別展 ふるさとの新たな主役「県の石」パンフレット (写真・説明) を発行予定, 他団体が原版を使用することの是非について, 質問があり, 産総研の印刷物をそのまま利用するなら問題ないとのこと.

以上

2017年3月4日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長 (代表理事) 渡部芳夫
署名人 執行理事 斎藤 真